

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	大野城市立御笠の森小学校 4年生 59名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○障がいの有無に関わらず共に生きる共生社会を目指すために、障がい（者）について学ぶこと。</p> <p>○パラアスリートと接することやパラスポーツを体験することを通じ、障がいについての理解を深め、気づきの機会とするとともに、パラスポーツのよさを感じとること。</p>
5 取組内容	<p>□総合的な学習の時間「ともに生きる」[観点：福祉]（全 15 時間）</p> <p>○障がいについて学ぼう（第1～2時）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚・聴覚・肢体等の各障がいについて知る。</li> <li>・自分にできる関わり方について考える。</li> </ul> <p>○視覚障がい者の方との出会いとアイマスク体験（第3～7時）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイマスク体験から気づきをもとに学習課題をもち、関わり方について考える。</li> </ul> <p>○聴覚障がい者の方との出会いと筆談・手話体験（第8～12時）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆談・手話体験から気づきをもとに学習課題をもち、関わり方について考える。</li> </ul> <p>○パラアスリートとの出会いとパラスポーツ（第13～14時）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピアンによる講話「スポーツを通じた共生社会」</li> <li>1)障がいとは何か</li> <li>2)ともに生きるとは</li> </ul>



3)パラリンピックについて

- 日本代表選手の指導による体験「車いすバスケットボール」
  - 1)バスケットボール用車いすに乗ってみよう。
  - 2)車いすで鬼遊びをしよう。
  - 3)ボールを持ってみよう。



4)ゲームをしよう。



○学習を振り返りまとめる。(第15時)

6 主な成果	○障がい(者)についての学びを通してパラアスリートと出会い、パラスポーツを体験したことから、障がいの有無に関わらずスポーツを楽しむことができるよさについて理解することができた。 ○パラリンピックを含むパラスポーツに関する講話とパラスポーツ体験から、障がい(者)とスポーツについて学ぶことができた。
7 実践において工夫した点(事業の特色)	○視覚障がい者の方や聴覚障がい者の方と出会い、アイマスク体験や筆談・手話体験等の学びを通してパラアスリートと接し、パラスポーツを体験させたことにより、障がい(者)への気づきやパラスポーツのよさを感じ取らせ、障がい(者)についての学習が深まるよう取り組んだ。
8 主な課題等	○現在のカリキュラムでは、4年生が年間に体験できるパラスポーツは1種目で45分から60分程度、個人が体験する時間は10分程度となることから、限られた時間の中でパラスポーツを理解するための方策が必要であること。 ○パラアスリートとの出会いやパラスポーツを体験するための「人・もの・こと」に係るコーディネート及び準備。特に、コーディネーターが必要であること。
9 来年度以降の実施予定	○総合的な学習の時間「ともに生きる」(観点:福祉)の学習にパラスポーツ体験の位置づけが持続可能なものとなるよう、県障がい者スポーツ協会及び市民福祉部福祉課、市教育委員会スポーツ課と連携した取組を行うこととしている。